

「5月病」だけじゃない？ SNSの危険と犯罪被害に要注意！

自治体・地域で防犯強化！ Secualが提供するAI×IoTの最新防犯プラットフォーム

スマートセキュリティおよびスマートタウン事業の株式会社Secual（本社：東京都渋谷区、代表取締役：菊池 正和、以下「Secual」）では、地域の安全性を高めるため、最新のIoT技術を活用したソリューションを提供しています。私たちは、個々の家庭のセキュリティ強化から地域全体の安全ネットワークの構築に至るまで、幅広い対策を提案し続けています。

今回のニュースレターでは、ゴールデンウィーク後の防犯リスクに特化し、連休明けの気の緩みや5月病が引き起こす可能性のあるセキュリティの隙間についてご紹介します。5月という時期特有の防犯リスクと共に、「自分たちができること」について考えましょう。

数字で見る空き巣被害とSNS犯罪の関係性

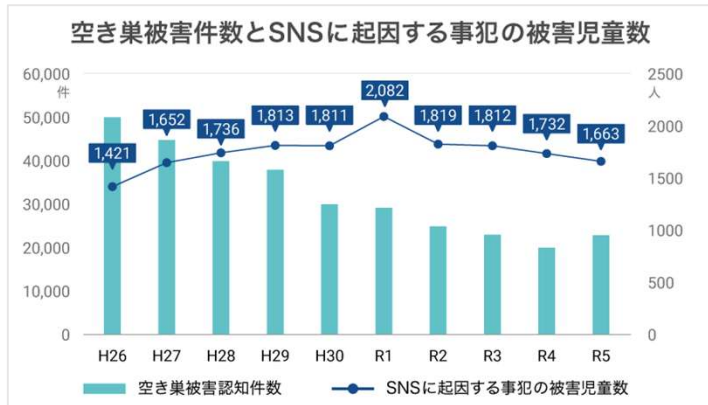
下記、左のグラフは直近10年間の空き巣被害件数とSNSに起因する事犯の被害児童数の推移です。平成26年と比較すると令和4年までは約800件まで減少しましたが、翌年再度1,000件近くまで増加しています。

更に右のグラフ、月別の認知件数で見ると、色々と物入りの時期である年末に次いで、イベント事が多くある5月が多くなっています。特にゴールデンウィークなどの大型連休中は、長期間家を空ける家庭が増えるため、空き巣被害が増加する傾向があります。

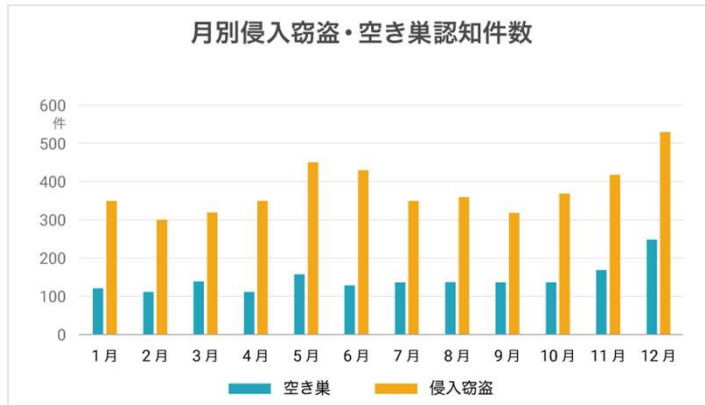
加えて、SNS上での情報発信が起因となり、「身バレ」「自宅バレ」「不在バレ」による犯罪も増加しています。埼玉県警察*1によると、SNSを通じて犯罪の被害に遭う児童・生徒は、令和元年の2,082人をピークに高水準で推移し、令和5年は1,665人が犯罪被害に遭っています。また、日本経済新聞*2によると、2023年に日本国内で発生したSNSを利用した詐欺犯罪の損失総額は約3,074億円に達し、特にSNSを利用した投資詐欺やロマンス詐欺が増加しています。

*1：埼玉県警察「SNSを通じての犯罪被害に注意」より出典

*2：日本経済新聞（2024年6月6日付）より出典



※住まいる110番、警視庁「令和5年の犯罪情勢」より作図



※警視庁「令和元年の犯罪」より作図

5月、犯罪リスクが高まる理由とは？

新年度が始まって1カ月。ゴールデンウィークが終わると、心身の疲れからくる「5月病」が話題になります。この時期は、SNSでのコミュニケーションが活発になる一方で、犯罪者に狙われるリスクも高まることをご存じでしょうか？
新生活のストレスや孤独感からSNSへの依存度が高まり、犯罪者に狙われやすいタイミングとなり得ます。特に、未成年者の誘拐・性被害、SNSを通じた詐欺やストーカーの被害が増える傾向があり、地域全体での防犯対策が求められています。

ゴールデンウィーク明けは、

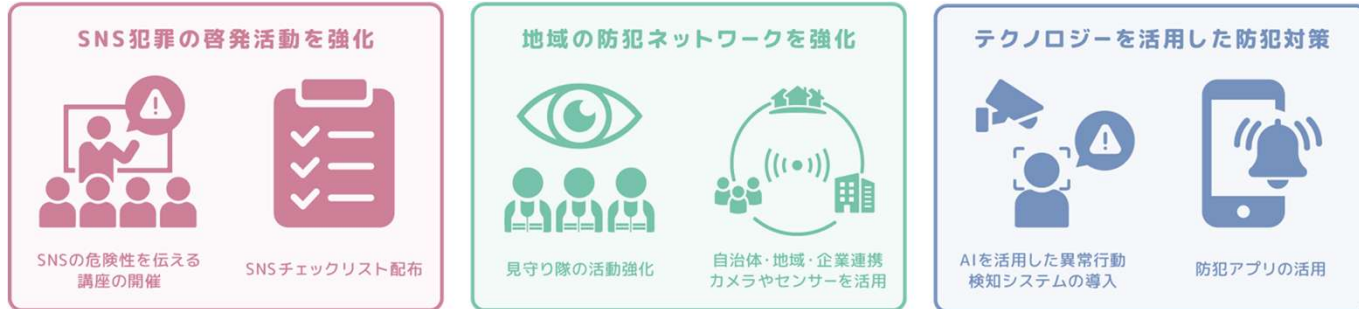
- ✓ 「GW中にSNSで知り合った相手と実際に会う」
- ✓ 「ストレス発散のために見知らぬ人と交流」
- ✓ 「悩みをSNSに投稿し、不審なアカウントから接触を受ける」

といった行動が増え、犯罪のリスクが高まります。



地域で取り組むべき対策

SNS犯罪の被害を防ぐには、自治体や企業、地域全体での対策が必要です。



実際に起きている被害事例

①「GW中に仲良くなった人」と会って被害に

ゴールデンウィーク中にSNSで知り合い、毎日メッセージのやり取りをしていた女子高校生。休み明けに「実際に会おう」と誘われ、軽い気持ちで出かけたところ、意図せぬトラブルに巻き込まれ、被害に遭った。

②「5月病」の不安をSNSに投稿 → 相談を装った犯罪者に接触される

「学校が辛い」「職場を辞めたい」といった投稿をきっかけに、「悩みを聞くと」とDMを送ってくる相手が現れる。優しい言葉で信頼させた後、実際に会うよう誘導し、最終的に金銭的な被害や監禁事件につながるケースも。

③ SNSの投稿が原因でストーカー被害に

お気に入りのカフェで撮影した写真をSNSに投稿。写真の背景から場所を特定され、見知らぬ相手に待ち伏せされるようになり、自宅付近でも姿を見かけるようになった。

【Secualの取り組み】地域防犯 × テクノロジーで安心を提供

Secualでは、リアルタイムで異変を検知し、迅速な対応を可能にする防犯プラットフォームを提供することでSNS犯罪の防止や地域防犯強化を推進しています。

1. 自治体・企業と連携した「防犯データ基盤」の構築

✓ 地域内での不審者・異常行動のリアルタイム検知

→ AI解析による異常検知で、危険が高まるエリアを可視化し、迅速な対応を支援。

✓ 自治体・企業向け「地域防犯・見守りダッシュボード」の提供

→ 地域の防犯・見守りデータを一元管理し、不審者情報や事件発生地点をリアルタイムで把握可能。神奈川県横浜市「LIVINGTOWNみなとみらい」ではカメラからの映像を遠隔で監視する施設リモート警備を、福井県若狭町では子供見守りサービスを導入いただいています。



2. AI・IoT技術を活用した今後の防犯システムへの取り組み

✓ 防犯センサーによる異常検知システム（夜間や人気の少ないエリアに設置）

→ センサーが異常を検知すると、即座に管理センターへ通知。自治体・警察と連携し、迅速な対応が可能。

✓ AI解析を活用した「危険エリア特定システム」

→ SNS犯罪や不審者情報をもとに、リスクの高いエリアを可視化。自治体が防犯対策を講じるためのデータを提供。

✓ 「自治体向けスマート見守りプログラム」

→ 高齢者・子ども向けの安全対策を強化し、地域全体での安心・安全を支援。

地域の連携で安心・安全な未来を

5月は、新生活の疲れが出やすく、SNSを通じた犯罪のリスクも高まる時期です。個人の防犯意識を高めることはもちろん、自治体・企業・地域住民が一体となって防犯対策を強化することが不可欠です。Secualは、テクノロジーを活用した防犯システムの導入や、地域と連携した防犯プラットフォームの構築を通じて、より安心・安全なまちづくりを支援していきます。

これからも、皆さまとともに「誰もが安心して暮らせる未来」の実現を目指してまいります。